令和６年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２４０１７

プロジェクト名　樹名板設置による藤沢演習林の利活用促進

プロジェクトの概要

生物資源科学部には、講義や研究、サークル等でよく使用される藤沢演習林がある。この演習林は、樹木の数は多いが樹種名の表記がなく、同定作業などに時間がかかり分かりづらいという点があった。そこで本プロジェクトでは、樹名板を製作し取り付ける活動を通して、より演習林を利用しやすくすることを目的とした。また学部祭と他プロジェクトとのコラボにより、藤沢演習林の存在や樹名板製作による森林利用について来場者への広報活動も行った。

プロジェクトの結果・成果

耐久性や視認性の比較を行うため、３種類の樹名板を製作し演習林内に設置した。第一に藤沢演習林の廃材を切り出し、ウッドバーニングペンを用いて文字を入れた。第二に、環境に優しく耐久性のあるプラスチックを使用した樹名板を採用した。第三に本校卒業生の在籍する企業の協力によりサーモウッドを使用した樹名板を制作した。

学部祭では上記の３種類の樹名板の実物を展示し、ポスター発表を行った。来訪者数は２日間で約 300 人にのぼり、参加者には実際に樹名板に触れ、木の香りを嗅いだりする体験をしてもらった。特に、廃材を利用した樹名板は環境への配慮という観点から関心を集め、多くの質問や意見が寄せられた。また、本活動の一環として、同自主創造プロジェクト「シバプロ」主催のイベントに出展し、廃材を利用したコースター制作のワークショップを実施した。来場者にはバーニングペンを用いてイラストや文字を焼き入れる体験から、森林資源の活用について考える機会を提供した。

これらの活動から、特に廃材を使用した樹名板は腐食後の環境負荷を考慮し水性ニスのみを塗布しており風化しやすく今後も適切な維持管理が必要であること、今回は演習林の入り口付近に限定して設置したが利便性向上のために設置エリアを広げることが望ましいと分かった。今後も企画を通して演習林を学びの場だけでなく、自然に触れる機会が少ない方々の憩いの場としても活用し、新しい演習林の使い道の発見につなげたい。

活動写真







